

【基本方針】

「利用者の安全を守り在宅生活を継続できるよう支援するとともに、職員が働きやすい職場環境を作る」

【年間目標】

- ① 感染症や災害が発生した場合でも利用者の必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制を作る
- ② 住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう多職種連携を行う
- ③ 自立支援・重度化防止に資する質の高いサービスの実現を目指す
- ④ 介護人材の育成、離職防止、生産性向上に向けた取り組みを推進する
- ⑤ 高齢者虐待防止に向けての取り組みを強化する

【実践計画】

- ① 感染症や災害が発生した場合でも利用者の必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制を作る
 - ・業務継続化計画に従い、感染症や災害が発生した場合の研修及びシミュレーションを定期的実施し、職員への周知徹底を図る
 - ・マスクの着用や手洗い嗽の励行、事業所内の衛生管理、感染予防の研修等デイサービス内で実施できる感染症対策を確実にを行う
 - ・現在の感染症の動向について情報収集し、職員及び利用者への情報提供や注意喚起を行う
 - ・家具の固定や落下物の撤去等、災害発生時に危険と思われるものがないよう対策を行うとともに、床やぶつかる場所に物を置かない、足を取られることのないようコード類の位置に注意する。車いすが通れる通路幅にする等、安全な導線確保に留意する
 - ・災害発生時に混乱なく避難できるよう、避難経路の確認や避難訓練を実施する
- ② 住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう多職種連携を行う
 - ・認知症になっても在宅生活が継続できるよう、認知症及び問題行動への対応方法について職員の理解を深め、認知症利用者への関わり方の実践的な研修を行う等、認知症への対応力向上に向けた取り組みを行う
 - ・ケアマネージャーをはじめ他事業所と密に情報交換を行い、何かあればすぐに対応できるよう連携を図る
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響で外出機会が減っているため、他者との交流機会が確保できるよう、利用者からの要望には可能な限り対応する
 - ・家族や近隣住民との信頼関係を築き、情報共有を行い、困りごとが小さなうちに解決できるよう多職種への働きかけを行う
- ③ 自立支援・重度化防止に資する質の高いサービスの実現を目指す
 - ・LIFE を積極的に活用し、得られたフィードバック情報を活用、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供に努める
 - ・利用者情報を把握し、自立支援を念頭に置きながら、どのような介護が必要か、ま

た自宅でどのように活用していけるかを検討し実践する

- ・利用者個々の心身状態を把握し、現在の ADL の維持向上が図れるよう、レクリエーションや体操のプログラムを考案し、その結果を検証し、効果的な機能訓練を実施する
 - ・運動レクリエーションの紹介や見学を随時行い、できるだけ多くの利用者の参加を促し、機能訓練により下肢筋力の低下を防止する
 - ・感染予防に留意しながら、室内でも季節が感じられたり外出気分を味わえたりする行事や、集団で楽しめてリハビリや脳トレの効果のあるレクリエーションの企画立案を行う
 - ・デイサービスの利用が楽しみや生きがいとなるよう、リラックスして過ごせる空間づくりを行い、その中で職員や他利用者との積極的な他者交流の機会を提供する
- ④ 介護人材の育成、離職防止、生産性向上に向けた取り組みを推進する
- ・スタッフ会議や勉強会を利用し、利用者対応の検討と、それに必要な介護技術の習得を行い、ケアの標準化を図る
 - ・定期的に面談を行う、意見交換をする場を設ける等、職員間のコミュニケーションが取れる場を積極的に作り、風通しがよく相互理解できる職場環境を作る
 - ・評価基準を明確化し、適切な評価にて職員のモチベーションを上げる
 - ・5S の推進、効率の良い介護方法の習得、手順の簡略化等により、業務効率化を図る
- ⑤ 高齢者虐待防止に向けての取り組みを強化する
- ・丁寧語での会話や節度を持った態度等接遇マナーに注意し、職員間でお互いに注意しあえる環境を作る
 - ・利用者を敬い真摯に向き合うことにより、利用者の思いを理解し、丁寧な対応を行い、不適切ケアを防止する
 - ・利用者単独での立ち上がりや歩行について検討を行い、行動制限や身体拘束を防止する
 - ・入浴時のボディチェックで不自然な内出血や怪我があれば速やかに報告を行い、事実関係を調査して虐待の早期発見に努める
 - ・前年度に引き続き虐待防止目標を設定し、打ち立てた目標が達成できるよう、具体策を検討し実行する

○稼働目標

- ・令和3年度2月時点での平均稼働率74.9%。令和4年度は10.0%上乘せし、82.4%を平均稼働目標とする